

# わが

## 大地の恵みを「まるごと」売り込む

### 自然と伝統文化の融合

湯沢市は、南北に貫流する雄物川と、その支流である皆瀬川、役内川沿いに豊かな水田地帯を形成しています。県境付近の西栗駒一帯は、栗駒国定公園に属し、雄大な自然林を有しているほか、豊富な温泉群にも恵まれています。



7人の小町娘が和歌を朗読する「小町まつり」

基幹産業は農林業ですが、日本三銘うどんの一つと称される稲庭うどんや国指定の伝統工芸・川連漆器と仏壇、

東北の灘とも評されている日本酒など、地場産業も盛んです。

また、平安期の謎に包まれた才女であり、世界三大美女の一人といわれる「小野小町」は、湯沢市小野が生誕と終焉の地といわれ、その地域の人々により今も多くの遺跡や伝承が守り継がれています。

江戸初期には院内銀山や松岡鉦山、白沢鉦山などが発見され、豊かな鉱物資源を産出していました。中でも、院内銀山は藩直営の銀山として繁栄し、最盛期の銀山の人口は、1万5000人ともいわれており、その銀山の繁栄は、本市の酒造りや商業など産業の発展の礎となりました。

合併後の将来像を「人と自然が輝き、ふるさとの技がさえる美しさあふれるまち」とし、本市が持つ自然・伝統・文化・工芸品などの魅

力的な素材をさらに磨き、生かしていくとともに、市民と行政が一体となり、自主性や自立性を高めながら、将来像の実現に努めています。

### 足元の宝「地熱エネルギー」

本市は、国内でも特に有望な地熱資源の宝庫として注目されています。

これまで市が主体となり、温泉旅館への給湯や、野菜・花卉栽培、公共施設での消雪などに地熱資源を活用しているほか、国内で唯一、乳製品の製造加工に地熱を利用している企業もあり、地熱を生かした産業は地域に根ざしています。

また、昭和40年代後半からは国や企業による地熱調査が行われ、平成6年に東北電力(株)「上の岱地熱発電所」が運転を開始し、管内への

クリーンな電力の供給と同時に、地域経済や産業などの発展に欠かせない施設となっています。

現在も、市内では大規模地熱発電所の建設に向けた調査が行われており、本年10月には日本地熱学会が本市で開催されることが決まっています。

本市の地熱エネルギーが、国内のエネルギー供給問題や地球温暖化対策の一助となることを期待しています。

### ジオパーク構想へ取り組み背景

本市は、平成17年の市町村合併後も人口減少が続いています。主な要因として少子化による自然減が挙げられるほか、現在の厳しい雇用情勢を背景とした学卒者などの若年層の人口流出も要因の一つとなっています。

減少する定住人口を交流人口の拡大により補完するため、合併後、観光の振興に力を入れてきました。

観光は、多様な産業と関連することから地域振興をけん引する産業といわれ、全国各地でさまざまな取り組みが行われています。観光は、地域経済の活性化に寄与するばかりでなく、活力ある魅力的なまちづくりや伝統・文化の保存育成を通じた地域の誇りの醸成にもつながると期待されています。

本市には豊かな自然や歴史文化、多彩な祭り、豊富な温泉資源、地力ある特産品など活用すべき魅力的な資源にあふれています。また、あまりにも身近な存在であるため、地域住民がその価値に気付いておらず、十分に活用できていないのが実情です。

そこで、本市が大いに力を入れているのが、本市の資源である地質遺産などを生かした、ジオパーク構想への取り組みです。現在の



岩から熱湯が勢いよく吹き出る「小安峡大噴湯」

このすばらしい資源を引き継いでいくために、ジオパーク構想のテーマを「大地が創り育てた美の郷ゆざわ」としました。

美の郷ゆざわジオパーク構想の中で、本地域の特色として、①湯沢の豊かな湧水、②大地(ジオ)が生んだ湯沢の美酒、③三関の扇状地と水が育む美味・さくらんぼとセ

### 美の郷ゆざわジオパーク構想

本市が抱えているこれらの諸問題を解決し、将来にわたって持続可能なまちとするために、世界ジオパーク認定に向けて、湯沢市ジオパーク推進協議会を設置。この組織を中心に、一丸となって、ジオパーク構想を策定するなど、取り組みを進めています。

本市の「ジオサイト(そのジオパークを特色付ける見所) 候補地」は、市の全域に広く点在しているため、「ジオパーク構想」の対象とするエリアを市全域とし、ジオパーク認定後の名称を「美の郷ゆざわジオパーク」としました。また、本市は、大地の恵みを産業に活用しながら、美しい自然や歴史、人物伝承などを現在まで引き継いできています。そこで、今後も、後世に、このすばらしい資源を引き継いでいくために、ジオパーク構想のテーマを「大地が創り育てた美の郷ゆざわ」としました。

り、④秋田美人の郷・湯沢、⑤大地の恵み「鉦山」、⑥大地の恵み「地熱」の有効活用、⑦大地が創り出した自然美、⑧大地の恵みを学習へ利用の8つを挙げて、それぞれ説明しています(詳しくは、湯沢市HPの「美の郷ゆざわジオパーク構想」を参照)。このように、本市に住む人々は、これまで大地の恵みを知り、活用し、現在もそこから本市の特産品を生み出すなど、産業活動・経済活動を行っている

ばかりか、それらを土台に文化をはぐくみ、脈々と従来からの生活を継承しているわけです。そうした本市の特徴を端的に言えば、「大地の恵みを産業利用し、経済・文化を築いてきた姿を間近に見ることができる地域」ということになります。

これからも大地の恵みと地域の良さを再認識し、世界に視野を広げて本市の魅力を「まるごと」発信していきたいと思えます。

### プロフィール

- ◆ 面積 790.72km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万1140人
- ◆ 世帯数 1万8265世帯

〔将来都市像〕人と自然が輝き、ふるさとの技がさえる美しさあふれるまち  
〔まちの特徴〕秋田県南の玄関口。県境付近は栗駒国定公園に属し、雄大な自然林を有しているほか、豊富な温泉群に恵まれている

〔市町村合併〕平成17年3月22日、湯



湯沢市長 齊藤光喜



※面積は国土院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 読めない! 書けない! 読めない! 書けない! どこにある? 難読地名をまちおこしの原動力に

### 日本一の植木のまち

匝瑳市は、千葉県の北東部に位置し、北部は緩やかな丘陵地帯、南部の田園地帯には水田や植木畑が広がり、海洋性の温暖な気候のもと、幅広く農業が営まれてい

### 日本最古の大学・飯高檀林

特に植木は日本有数の栽培面積を誇ることから「日本有数の植木のまち」をセールスポイントにしています。また、千葉県が認定する卓越した植木技術者である「植木伝統樹芸士」の3分の2を輩出するとともに、千葉県植木銘木100選に認定されている銘木の半数を有するなど、植木産業の盛んな千葉県においても突出しており、特にマツやマキなどの造形技術にかけては「日本一」を自負するところであり、このような高い技術に裏打ちされるように、市内には手

### 千葉県を代表する祇園祭

もう一つの観光の目玉が、毎年8月4日、5日の2日間にわたって市の中心部で行われる「八重垣神社祇園祭」。毎年多くの人出でにぎわうこのお祭りには全国的にも珍しい特徴が3つあります。1つは、女神輿。祭の初日、女性だけのお神輿が十基繰り出し、中心市街地を練り歩きます。2つ目は、神輿の連合渡御。各町内自慢のお囃子と二十基を超える神輿が連なり、練り歩く姿は見どころ十分です。3つ目は、神輿と担ぎ手に浴びせられる大量の冷水。その圧巻の模様は多くの祭りファンを魅了すると同時に、真夏の祭典に一服の清涼感をもたらします。もちろん神輿も水対策の施された特別仕様です。



悠久の歴史と文化の漂う「飯高檀林講堂」

### 難読地名の横網誕生

「匝瑳」の地名も日本一になりました。平成18年の匝瑳市誕生以来、「そうさ」は漢字でどう書くのか? 「匝瑳」は何と読むのか? そのようなお問い合わせを多数いただくようになり、「難読地名の横網格」との評価をいただくところとなったのです。

漢和辞典によると「匝」は、訓読みで「匝る」と読み、一巡りして帰るという意味があり、「瑳」は、訓

読みで「瑳やか」あるいは「瑳く」と読み、鮮やかで美しいという意味があります。このように素晴らしい「匝瑳」という地名を全国の皆さんに知っていただきたい、訪れていただきたいの思いから、「読めない 書けない どこにある」と言われる「匝瑳」の名を全国に発信すべく事業展開を行っています。

### 「ご当地づくし」まちおこし

その一つが「ご当地もの」によるまちおこしです。最近、日本各地でブームの「ご当地ヒーロー」「ご当地銘菓」「ご当地アイドル」。匝瑳市にはすべてそろっています。



「宍粟市のしーたん」と「ソーサマン」が夢のコラボ

マン」。市の若手職員の有志が運営しています。衣装からシナリオまですべて手作りで、スタッフも全員ボランティア。ちびっ子たちの憧れのヒーローとして、市内のイベントのステージショーで大活躍するかわら、都内や県内各地のイベントにも積極的に出向き、市のPR活動を行っています。

また、難読地名の西の横網格の兵庫県宍粟市で、本市の取り組みを参考にCMコンテストを計画したというお話がありましたので、早速6月に、「ソーサマン」が宍粟市のイベントに飛び入り参加してまいりました。横網同志頑張っていきたいと思います。

次は、「ご当地銘菓「そうさまん」」。市内6軒の菓子店のオリジナル饅

匝瑳市長 太田安規

### プロフィール

- ◆ 面積 101.78 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万9,548人
- ◆ 世帯数 1万4,152世帯

〔将来都市像〕海・みどり・ひとがはぐくむ活力あるまち匝瑳市

〔まちの特徴〕北部の緩やかな丘陵地には里山の自然が多く残り、南部の田園地帯には植木畑が広がるみどり豊かなまち。

〔市町村合併〕平成18年1月23日、八日市場市と匝瑳郡野栄町が対等合併

〔特産品〕植木、赤ピーマン、そうさ若潮牛、ブランド米「匝瑳の舞」

〔観光〕飯高檀林跡、松山庭園美術館

〔イベント〕八重垣神社祇園祭、飯高檀林コンサート、植木まつり、チューリップ祭り、よかつべ祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 海と花と世界が響き合うまち 泉南

## はじめに

泉南市は、大阪府の南部に位置し、人口約6万5000人、総面積48・48km<sup>2</sup>、関西国際空港の一部を市域に有する臨空都市です。市域は、東西8・4km、南北10・5kmの広がりを見せ、和泉山脈に通じる山間部と前方の丘陵地、そして関西国際空港を臨む海岸部より成り立っています。

その歴史は古く、縄文・弥生時代までさかのぼり、白鳳から天平年間には寺院が建立されるなど文化的にも主要な位置にあったことがうかがえます。江戸時代は紋羽織の生産でも有名になり、大正・昭和時代には紡績業は地場産業として地域の発展を支えてきました。そして現在は、海岸部のりんくうタウンに多くの事業所が立地し、空港関連事業の

集積地として発展を続けています。

## 海に映えるウミガメ

本市の海岸部には、サザンビーチとマーブルビーチが広がります。海水浴場であるサザンビーチは、夏には多くの海水浴客でにぎわいますが、しばしば海水浴とは別のお客さまが訪れることがあります。大阪湾では珍しくウミガメが産卵のため訪れるのです。最近では、平成22年初夏の深夜、ウミガメが来浜、産卵したとの連絡があり、市は市民と協力して24時間体制で約2カ月間その卵を見守り続けました。そして9月、約90匹のウミガメの赤ちゃんが孵化し、全員が無事、海に戻れたことを確認いたしました。私は、ウミガメがこの地をふるさととして再び訪れることを願い、これからも市民と協力の

して砂浜の保全に取り組んでいきたいと考えています。

マーブルビーチは、大理石の小石が敷き詰められた純白の海岸であり、真夏日に訪れると、海岸一帯は海と空の青に映えてまぶしいほど真白く輝きます。また、そこから見える夕陽は、関空島と飛び立つ飛行機のシルエットを背景にして時間とともに姿を変え、自然が織りなす素晴らしい景色を堪能できることから「日本の夕陽百選」と「恋人の聖地」に認定されています。隣接している市の総合交流拠点施設「せんなんわくわく広場」のレストランでは、多くの家族や恋人たちが夕陽を眺めながらゆったりとしたぜいたくな時間を過ごしています。

## 花が彩るハナマチ

本市の山間部にある農業公園「泉



世界で2カ所目となる公式イングリッシュローズガーデン

さを堪能できる、イングリッシュローズのふるさととなることを心より期待しています。

また、地域の中央を貫く熊野街道は、江戸時代の参勤交代の際に紀州徳川藩が利用し、沿道には現在でも宿泊施設となった信達宿が所在するなど、当時の面影を強く残しています。その信達宿に植えられた一本の藤の苗木が30年の時を経て、毎年4月には4万を超え、花房を付けるほど見事に成長し、今では市民が主体となって「信達宿の藤まつり」を開催しています。幹周り1・5m、枝ぶりが27㎡にまで育った見事な藤は、「見上げれば麗し、見下ろせば雅」とうたわれ、藤まつりの期間中、小さな会場に

3万人もの来訪者が訪れるほどの季節イベントとなりました。最近では「熊野街道花あかり」と称して会場までの順路にランタンを設置するなど、ゆっくりではありますが、熊野街道全体のにぎわいづくりにへと展開しています。

## 世界へ通じるソラマチ

関西国際空港は、今年7月1日に大阪国際(伊丹)空港と経営統合し、これからは新たな経営体制の下で、国際拠点空港としての再生、強化を目指し、国際競争力の強化とともにLCC拠点および国際貨物ハブ拠点としての機能強化など積極的な取り組みが進められます。本市は、国際空港を有する市として、空港を単なるインフラではなく地域の資源、ひいては観光のハイライトとして活用を検討するなど、関西国際空港や近隣市町と協働して空港を生かしたまちづくりを進めていきます。

一方で、海上空港という特性に起因するリスク、特に地震による津波やテロなどによる空港の孤立を防ぐため、空港への第2アクセスとなる「南ルート」実現構想を掲げています。現在、関西国際空港

は1本の連絡橋で対岸部と結ばれているため、何らかの事情により通行が不能となった場合、空港は孤島となりその機能がまひするところが懸念されます。国際拠点空港は、いかなる場合でもその空港機能を維持することが極めて重要であり、リスクマネジメントの観点からあらゆるリスクを回避、低減することができるよう「南ルート」の実現に向けて取り組んでいます。

## 結びとこ

泉南市は、海や山という恵まれた自然環境を享受し、先人から豊かな歴史文化を継承しつつ、関西国際空港を有する臨空都市として、現在までその歩みを進めてきました。私は、先人たちが今日まで歩んできた軌跡をたどり、次世代を担う子どもたちへ資産として引継ぎ、未来へ紡いでいきたいと思っています。

## プロフィール

- ◆ 面積 48・48km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万4979人
- ◆ 世帯数 2万5248世帯

〔将来都市像〕水・緑・夢あふれる生活創造都市

〔まちの特徴〕恵み豊かで「茅渟の海」と呼ばれる大阪湾、金剛生駒紀泉国定公園に指定されている緑豊かな和泉山脈、そして世界への玄関口である関西国際空港を有する臨空都市

〔特産品〕たまねぎ、さといも、ぶき、



泉南市長 向井通彦



水なす、あなご、泉だこ、花き、軍手

〔観光〕林昌寺庭園、岡中の大樟、史跡海会寺跡、長慶寺、金熊寺の梅林、りんくうタウン、せんなんわくわく広場、泉南市農業公園花咲きファーム、サザンビーチ、マーブルビーチ、関西国際空港

〔イベント〕信達宿の藤まつり、林昌寺大護摩供、ABCまつり、やぐらパレード

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



日本の国際拠点「関西国際空港」

# 市民や観光客に癒やしと活力を与える 「食」創生都市」を目指して

はじめに

宮崎県のほぼ中央部に位置する西都市は、宮崎市街地から車で約30分、宮崎空港から約40分のところにある歴史ロマンあふれるまちです。野球やサッカーをはじめとした多くのプロ・アマチュアチームのスポーツキャンプ地としても知



西都古墳まつり(炎の祭典)

られており、現在はプロの自転車チームを誘致した自転車レース事業の計画も進めています。

また、温暖な気候と豊かな大地で生産される農畜産物は、全国でも高く評価されており、日本屈指の食料供給基地として安全・安心な農産物を全国に出荷しています。代表的な農産物はピーマンやスイートコーン、ニラなどの施設野菜ですが、近年は「太陽のたまご」のブランド名で知られるマンゴーの生産が盛んになり、本市を代表する農産物となっています。そのほか、山間部で生産され、九州一の生産量を誇るユズやその加工品、良質な水と甘藷を原料につくられる焼酎もお土産品として知られています。

### 元気な日本のふるさと、西都

平成23年3月に策定した「第4次

西都市総合計画」では、本市が市民と協働して進める西都づくりの目標を「元気な日本のふるさと、西都」未来へと勇躍する「食」創生都市を目指して」と定め、豊かな大地の恵みである安全でおいしい農畜産物や食品、料理など、西都市が持つ資源である「食」を通じて雇用の創出や地域の活性化を図り、市民や訪れる人々に癒やしと活力を与える「食」創生都市」を目指しています。

その中心戦略として位置付けている「食創生戦略」では、地域ぐるみで農村環境の保全、環境と調和した農畜産物の生産基盤・技術の研究などで「食」の基本となる農林業の振興を進め、そこで生産された安全・安心な農畜産物の販路拡大や加工する企業の誘致を図りながら、本市で生み出された「農」に

よる健康づくり、生きがいづくり、おもてなしを通じた観光交流に活用するなど、「食」の連携を展開しています。

また、「食」に関する産業を有機的に連携させた6次産業化を図りながら、新たな産業や雇用の創出を推進し、大地の恵みである「食」の力を戦略的に発揮できるまちづくりを進めています。

### 「記・紀」編さん1300年

宮崎県は、「古事記」「日本書紀」に記されたわが国発祥にまつわる日向神話の舞台であり、神話や伝統文化、史跡などが数多く残されています。本年は古事記編さん1300年、また、平成32年には日本書紀編さん1300年という歴史的に大きな節目に当たります。また、市街地西方約1kmの台地に広がる国指定特別史跡「西都原古墳群」は日向神話に出てくるニギノミコト、コノハナサクヤヒメの御陵であると伝えられる古墳をはじめ

大小311基もの古墳が点在しています。当地は、春は約2000本の桜と約30万本の菜の花が共演し、夏には口蹄疫の復興シンボルである約200万本のヒマワリ、秋には約300万本のコスモスが咲き誇り、年間約100万人の観光客が訪れる県内でも有数の観光地です。また、市街地から都萬神社を経て西都原古墳群に向かう経路には、現在「記・紀」の道が整備されており、神話の世界を堪能できます。

### 伊東満所(マンシヨ)

### 没後400年記念事業

本年は、天正遣欧少年使節の正使としてローマ法王に謁見した伊東満所(マンシヨ)没後400年という節目の年に当たります。駐日サンマリノ共和国大使による記念講演会や、歌とバージナル演奏会、市民手づくりのマンシヨ市民創作劇の上演、西都市教育文化祭と合同での小中学生による美術コンクールと写真展、西都市歴史民俗資料館での企画展などを予定しております。

また、一般市民向けのパンフレット作成や、平成遣欧少年使節ゆか

りの地海外派遣事業でイタリアなどに派遣された中学生の感想文集を作成予定です。そのほかの関連事業として、市内各小中学校でマンシヨを語る学習会の実施、市民と協働して県内のマンシヨゆかりの地を巡るツアーの開催、ポスターやワッペン、シールなどの作成を予定しています。

そのほか、都於郡城址まつりと合同で式典、古楽器と都於郡小中学生の合唱とのコラボレーション演奏会を都於郡城跡にて実施する予定です。

### 姉妹都市提携を目指して

長崎県西海市は、天正遣欧少年使節の中浦ジュリアン生誕の地というところで、本市と天正遣欧少年使節ゆかりの地をきっかけとした交流を行っている長崎県の4市1町(大村市・西海市・南島原市・雲仙市・波佐見町)の1つです。市の名称(国内には、頭に「西」と書いて「サイ」と読む市が3市ある。愛媛県西条市、長崎県西海市、本市)や市の木「ヤマモモ」、市の鳥「ウグイス」、そして人口規模、財政状況、さらに畜産も盛んであることなど、本市と類似点が多くあり、両市の

### 終わりに

私は今後も、市民が「幸せ」を感じることができる西都市にしていきたいと思っています。そのためには

### プロフィール

- ◆ 面積 438・56km
- ◆ 人口 3万3135人
- ◆ 世帯数 1万3868世帯

〔将来都市像〕元気な日本のふるさと西都。

〔特産品〕ピーマン、スイートコーン、ニラ、マンゴー、西都牛、ユズ

〔観光〕西都原古墳群、都於郡城跡、都萬神社、銀鏡神社、宮崎県立考古博物館

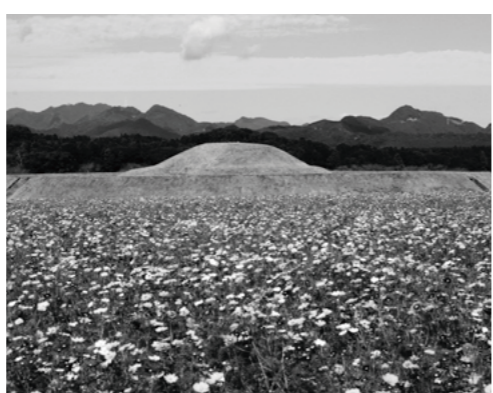
〔イベント〕西都原(こ)のはなマラソン大会、西都花祭り、西都古墳まつり、銀鏡神楽、下水流臼太鼓踊、有楽椿まつり、西都市ロードレース大会



西都市長 橋田和実



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



鬼の窟とコスモス(西都原古墳群)

市民とともに「元気な日本のふるさと西都」の実現を目指してまいります。